

官民共創の新しいまちづくり協議会 議事概要

会議名	第2回伊那弥生ヶ丘高校将来活用 WG		
開催日	2024年10月3日(木)		
開催時間	開会	16:30	閉会 18:30
開催場所	伊那市役所 305 会議室		
出席者			
協議会・WGメンバー	平賀裕子氏、山本風音氏、須永理葉氏、吉岡秀幸氏、大塚純氏		
事務局・職員	商工観光部：柴商工振興課長、林課長補佐 教育委員会：唐澤学校教育課長、伊藤課長補佐 地域創造課：浦野係長		
関係者			
欠席者	—		
議事	1. 市のコンセプトについて 2. WG の進め方について		

議事項目	概要	次のステップ
1、市のコンセプトについて		
・市のコンセプトについて	<p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回、この WG で「○○○な伊那市」について話合った。</li> <li>・市のブランディング担当で同様のコンセプトがあるなら、共有しながら進めていかなければいけない。</li> </ul> <p>○市から説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランディングについては、昨年担当係ができた。</li> <li>・地域内、地域外、自治体に対して、アンケート調査（ニーズ調査、実態調査）をいくつか実施した。</li> <li>・委託事業者が決まったので、昨年度の結果の分析と改めて地域の意識を調査している。</li> <li>・市のブランディングのコンセプトを1か月ぐらいのうちに掲げられるように動いているところ。</li> <li>・整理できたら共有する。</li> </ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンセプトは、市で進めているので、この WG で決めない。最終的には、同じようなところに落ち着いてくるということよいか。</li> </ul> <p>○市から説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊那のフィールドでは、学びの要素的なこと、人の生きる力を育てたり、伸ばしたりすることが重要であり、その方向で設定されると考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市ブランディングのコンセプトが整理できたら共有してもらう。</li> </ul>



<p>・イメージを出して意見をもらう。</p> <p>・「伊那市らしい多様な学び」について</p> <p>・売りプレゼン資料を作成する。</p>	<p>・つまり「市民の声を聴く場」で市民の声を聴くのではなく、市民が使えるようになるためにサポートしたいということによいか。</p> <p>○WG メンバー</p> <p>・サポートというわけではなくて、本当に使う人が大勢育ってほしいと思っている。</p> <p>○市から説明</p> <p>・対話の場づくりをしていくことがWGのメインの仕事とすると、その方向性をシェアしなければいけない。全体の会議でも決めていかなければいけないことと思う。</p> <p>○WG メンバー</p> <p>・我々が逆に、こうあるべきだという枠を作った方がよいのか。</p> <p>・ある程度イメージを持って提案をしていくと、結構突っ込みも含めて、意見が出てくる。</p> <p>○WG メンバー</p> <p>・最初に市から共有してもらった活用案の可能性をシェアする方法で、市民にもアプローチしたらどうだろうか。</p> <p>○WG メンバー</p> <p>・あまり具体的なことを聞いたところで、実現性が薄くなってしまい、方向性が定まらないことがある。</p> <p>・単純に聴いても何も出てこないかもしれない。</p> <p>○WG メンバー</p> <p>・伊那市らしい多様な学びってどういうことなのか話しあえれば。</p> <p>・「伊那市らしい多様な学び」「伊那市らしい生涯学習」「伊那市の屋根のない博物館」をみんなで考えることを柱として、集まってもらってもよい。</p> <p>○WG メンバー</p> <p>・「何を聴くんだ」というところをイメージ膨らませたい。</p> <p>○WG メンバー</p> <p>・施設を使う側からの視点で、企業、大学から「こんな使い方できると面白い。」という話を聴けると先につながる。</p> <p>・どんな使い方があるか調査を行う。</p> <p>○WG メンバー</p> <p>・聴きに行くにあたり、こちら側から施設の売りとなるものを集める。</p> <p>→下地は集めておいた方がよい。売りプレゼンが必要。</p>	<p>・「対話の場づくり」は、全体の会議でシェアしないといけない事項。</p> <p>・早めに売りプレゼン資料を作成することはできそう。</p>
--	---	--

<p>・対話の場は、意見を聞く場ではなく、「やりたい気持ち」を集める場。</p> <p>・自走できる入居者でないと施設運営は厳しい。</p>	<p>・聴く対象は市民ではないが、重要な仕事となる。</p> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「学び」というのも人それぞれなので、そこをそろえていく必要がある。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・キーワードがあればデザインが浮かんでくるのか。</li><li>・こちらからイメージを植え付けるのはダメだけど。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・違う視点を投げかけると、普段の生活にはない見方の意見が出てくる。</li><li>・漠然としていてもある軸を設定したイメージを投げかけると、刺激されて意見が出てくる。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・なるべく多くの人の声をきくというよりは、なるべく多くの視点を集めることが、市民の声を聴くことになるかもしれない。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・市民の声を聴くというのは、難しい。</li><li>・経験では、全ての意見を聴いていたら、できなかったものも、キーマンの意見で押し切ってやることで、後からわかってもらえるということもあった。</li><li>・でも聴くのも大事だから一長一短。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「聴く」と「活かす」というのがある。聴いても全て活かすわけではない。</li><li>・「聴く」も聴く方がどういうマインドで聴くのか。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・市民のニーズを聴いたうえで提案しようというわけではない。</li><li>・やりたい人を発掘する場にしたい。</li><li>・そういう人を多く集めるのに、会の名前を「弥生の跡地を考える会」とした方がよいのか、「学びを考える会」とした方がよいのかはわからない。</li><li>・意見を集めたいのではなく、「やりたい気持ち」を集めたい。</li><li>・「やってください。」は要らない。今回を契機に今後の市民の参加の仕方も変わってくればよいと思う。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・行政で直接維持していくのは難しい。自走していく施設でなければいけない。個人・団体だけでは厳しいと感じる。</li></ul>	
--	---	--

<p>・進め方のイメージまとめ</p> <p>・移住相談の企業版というものは行われているのか。</p>	<p>・興味のある大学や企業に購入いただくのがいいと思う。</p> <p>○WG メンバー</p> <p>・理念的意味での多様な学びの場が弥生跡地で、実際問題として、運営母体を誰がやって、施設を回していくために大学・企業が必要。一方で、お金は産まないけど地元の人が小さいお店をやるプラットフォームで賃貸するという話。これと学びの場が、どんな風に結びつくのか。イメージつかない。</p> <p>○WG メンバー</p> <p>・広さを考えたら、どれか一つというのではない。</p> <p>・総合的なビジョンとなるための場所となるならば、ここはこういう場所というコンセプトを作ったうえで、企業や大学等に提案しつつ、市民でやりたい人との対話の場をやっていく。</p> <p>・コンセプトがあって意味のある対話ができる。</p> <p>・市民に、どういうことやりたい場所ですよ。という説明の材料になる。</p> <p>・一方でお金の問題もきちんと考えている。</p> <p>・市民の声をきくとは、市民の声をきくばかりでなく、企業とか運営母体となってくれる人の声を聴くことも含めて、市民の声になる。</p> <p>・二方向から進めていく。一つが仲間づくり、人の発掘。もう一つがパートナー発掘。</p> <p>・パートナー発掘するためにプレゼン資料が必要。</p> <p>・人発掘では、核となる市民の思いを掘り起こすためのベースとなる「伊那市の多様な学び」のイメージが必要。</p> <p>○WG メンバー</p> <p>・校舎の一部を解体することも含めて、今のままでは、どこの企業も来てくれない。</p> <p>・魅力を高めることが必要で、投資していかなければいけないと思う。</p> <p>・どの部分にどう投資するかは考えるし、デザインできる。核になる市民の思いから私たちが発想することになる。</p> <p>○市から説明</p> <p>・産業立地推進課で工場の誘致をしている。</p> <p>→オフィス版はやっていないのか。</p> <p>・サテライトオフィスが満室なのでやっていない。</p> <p>・当課としては、弥生跡地をIT企業のオフィスを呼んでくる施設として活用する案もあった。</p>	<p>・企業向けの資料作り</p> <p>・市民との対話のためのベースとなる資料作り</p>
---	---	--

<p>・会議の開催頻度</p>	<p>→「多様な学び」にコミットしてくれる企業を誘致すればよい。 →呼んでくる企業が、ここでエンジニアの教室をやればよい。</p> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業に来てもらうためにも、この場所の売りを整理しておく。公共交通機関があり、自然があつてとか。</li> </ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社員の仕事と暮らし、子どもと教育とか人生そのもので伊那市を受け止めると最高に幸せですよ。というパッケージで売りたい。</li> <li>・オフィスもあるし、住まいもある。</li> <li>・暮らし、学び、仕事の3点セットのサポートが伊那市全体でできる。</li> </ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母体探しの企業に話に行くときに、こういうことができるという一案となる。</li> <li>・教育とかいろんなパターンを用意しておく必要がある。</li> <li>・企業が興味あることを出しながらいいいパートナーを探していく。</li> <li>・最初から絞り込まない方がよい。</li> </ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リアルには月に1回開催。</li> <li>・イメージは大事。東京から来た人間としては、どの市がどうだとかわからない。情報が大事。この会議とかも動画とかで発信してほしい。</li> </ul>	<p>・会議の情報公開の内容となる。全体の事務局での検討をお願いする。</p>
<p>3、今後のスケジュール</p>		
<p>・次回の日程</p>	<p>・11月7日(木)16:00-18:00 501 会議室</p>	